

アナログ関連アクセサリーの試聴(18)  
—THE FUNK FIRM の Achromat (5) —

1. はじめに

システムに何らかの手を加えた場合、その音質を試聴して報告するとともに、TASCAM DA-3000 で録音して残すことにしています。[LINN LP-12 の再構成\(11\)](#)では、LINN LP-12 の再構成後の音質を記録、確認するために録音しています。今回、Achromat の効果を録音で確認してみます。

2. Achromat の録音と試聴方法

録音は、LINN LP-12 から MySonic Stage 1030 経由で MYTEK Brooklyn DAC+ の MM Phono 入力からの P&G フェーダーの出力を TASCAM DA-3000 のアナログ入力し、DSF 5.6MHz で録音します。TASCAM DA-3000 には GPS-777 から 44.1KHz のクロックを入力しています。

TASCAM DA-3000 の SD カードから録音済音源を fidata にコピーし、fidata から読み出して、MYTEK Brooklyn DAC+経由で再生します。

今回、Achromat の効果を録音しますが、LINN LP-12 の再構成(11)以降、Quantum Damping の導入など、種々条件が変わっていることから Achromat と同時に以前の和紙のシートでも録音しなおして比較します。

3. Achromat の試聴結果

和紙のシートでも、LINN LP-12 の再構成や Quantum Damping の導入の効果で、随分とレベルが上がっていますが、それでも Achromat の効果が聴き取れます。

倍賞千恵子のボーカルでは、Achromat の方が、和紙のシートより、声の微妙なニュアンスが伝わってきますし、エコーが、より明瞭に聴き取れます。

ファリャの三角帽子では、やはり Achromat の方が、和紙のシートより、音場感がリアルで、オーケストラのメンバーの掛け声やカスタネットの数が増えたように聴こえます。

バッハの無伴奏チェロ組曲では、Achromat に替えますと、和紙のシートで残っていた僅かな弦の硬質感が払拭され、倍音が豊かに聴こえてきます。

4. まとめ

LP-12 によるアナログ盤の再生における DSD 録音において Achromat の効果が確認できました。

以上